

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 16 号		
所属	保健学専攻 生涯保健学分野 成人保健学領域	氏名	阿部 裕一
学位論文題目	Availability, usage, and factors affecting usage of electrophysical agents by physical therapists: a regional cross-sectional survey (物理療法機器の保有状況、使用状況、および使用に影響を与える要因：理学療法士に対する調査研究)		
論文審査担当者	主 査 横川 吉晴 副 査 木村 貞治, 百瀬 公人		
(学位論文審査の結果の要旨)			
<p>本研究は理学療法士が物理療法として使用する治療機器の保有状況、使用状況、および使用に影響を与える要因の3つについて、横断調査を行ったものである。これまで国内外では縦断調査がほとんどなく実態の変遷も未確認のままであった。国内では20数年前に実施されて以来、大きな規模のものとして行われた。この点からも本研究を行う社会的必要性が伺える。対象を長野県理学療法士協会に所属する県内理学療法士としているが、そのほとんどが養成教育を他県で受けてきたことから同一の教育を受けたわけではなく多様であり、教育課程に違いを持つことである程度一般化できる可能性はある。が、無作為抽出を考えるならば、厳密には日本理学療法士協会の協力なども仰いで将来的には全国的な規模での調査が望ましいと言える。調査項目は海外の先行研究による質問紙を参考に作成している。この点は、調査項目を独自に作成する手続きを予備調査でも踏襲し、先行研究の調査項目を利用していることから、ある程度の妥当性を確保したと思われる。質問のうち Confidence (使用に対する自信) を訪ねている項目があるが、self efficacy (自己効力感) と共通する要素を含んでいると思われる。self efficacy とは行動を起こす前に感じる「遂行可能感」、自分がこのようなことができるといった考えを指す。社会心理学で用いられるこのような評価指標を用いたほうが仮説を明確にできる可能性もあることから、使用に対する自信を測定する質問紙尺度を作成するなどを今後の研究課題としてもらいたい。</p> <p>結果では、保有状況、使用状況、および使用に影響を与える要因を示している。保有状況ではパラフィンバス、赤外線、マイクロ波が減少傾向にあった。恒常的に使用されているものはホットパック、超音波があげられた。使用状況では、ホットパック、超音波、コールドパックの順に使用されていた。使用に影響を与える要因では、機器の保有状況、過去の経験、エビデンスが大きかった。機器の使用状況と Confidence は相関を認めていた。</p> <p>考察では、使用状況に最も影響を及ぼす要因として confidence を論じている。横断調査では因果関係は明確にはできないことから、考察に記された意見は仮説の域を出ない。研究の限界と今後の展望に記された通り、今回の横断調査データの二次解析や縦断調査が必要といえる。何れにしても実態を明らかにすることができたので、使用状況への影響を及ぼす要因とその構造、そして、教育的な立場からの介入研究へと続けてゆくといった本研究の社会的意義があると考えられる。</p> <p>以上の点から、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			